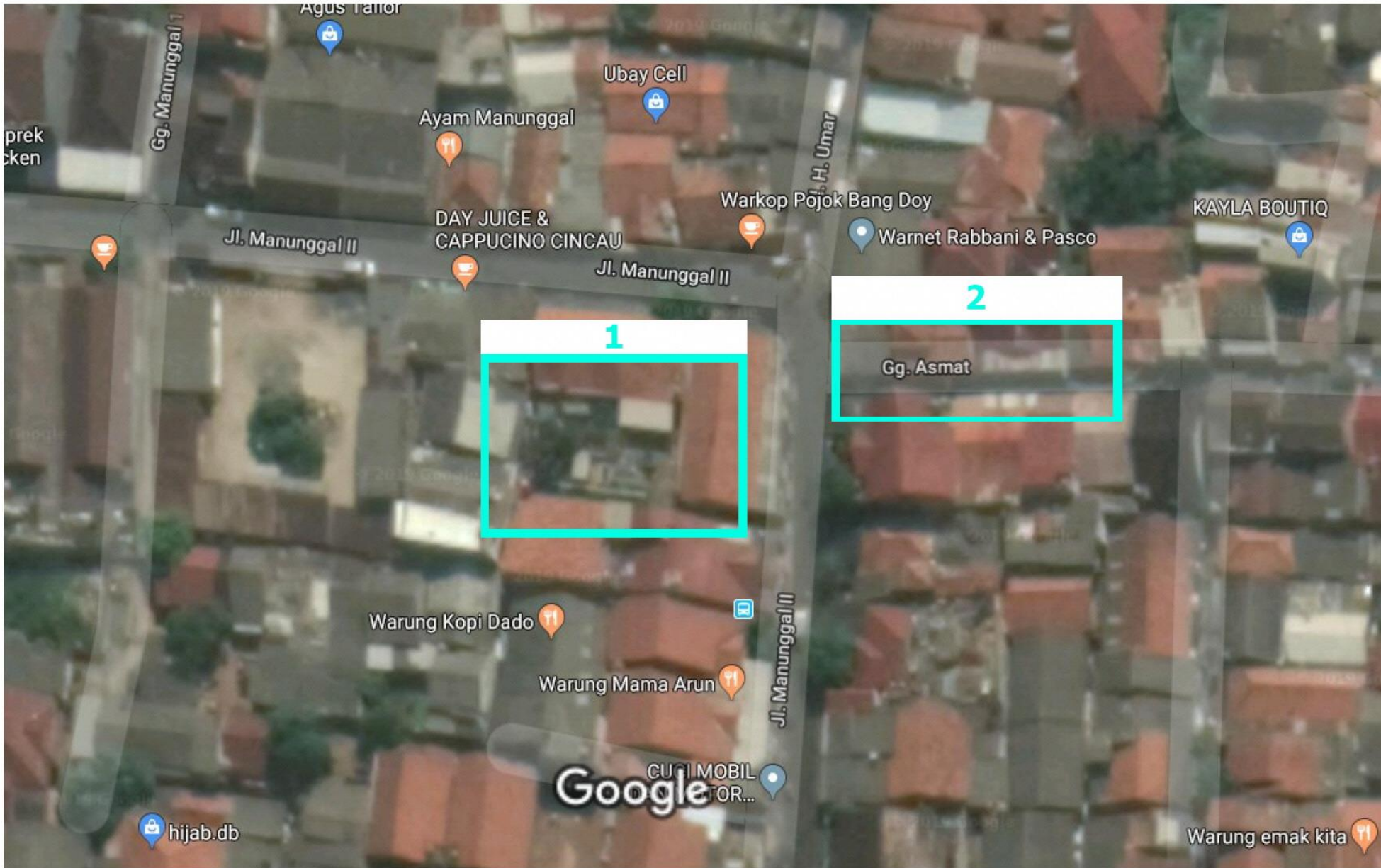




**名前** : ラティファ  
**出身** : ジャカルタ (インドネシア)  
**年齢** : 51歳  
**職業** : 主婦 (農業団体代表・農家)

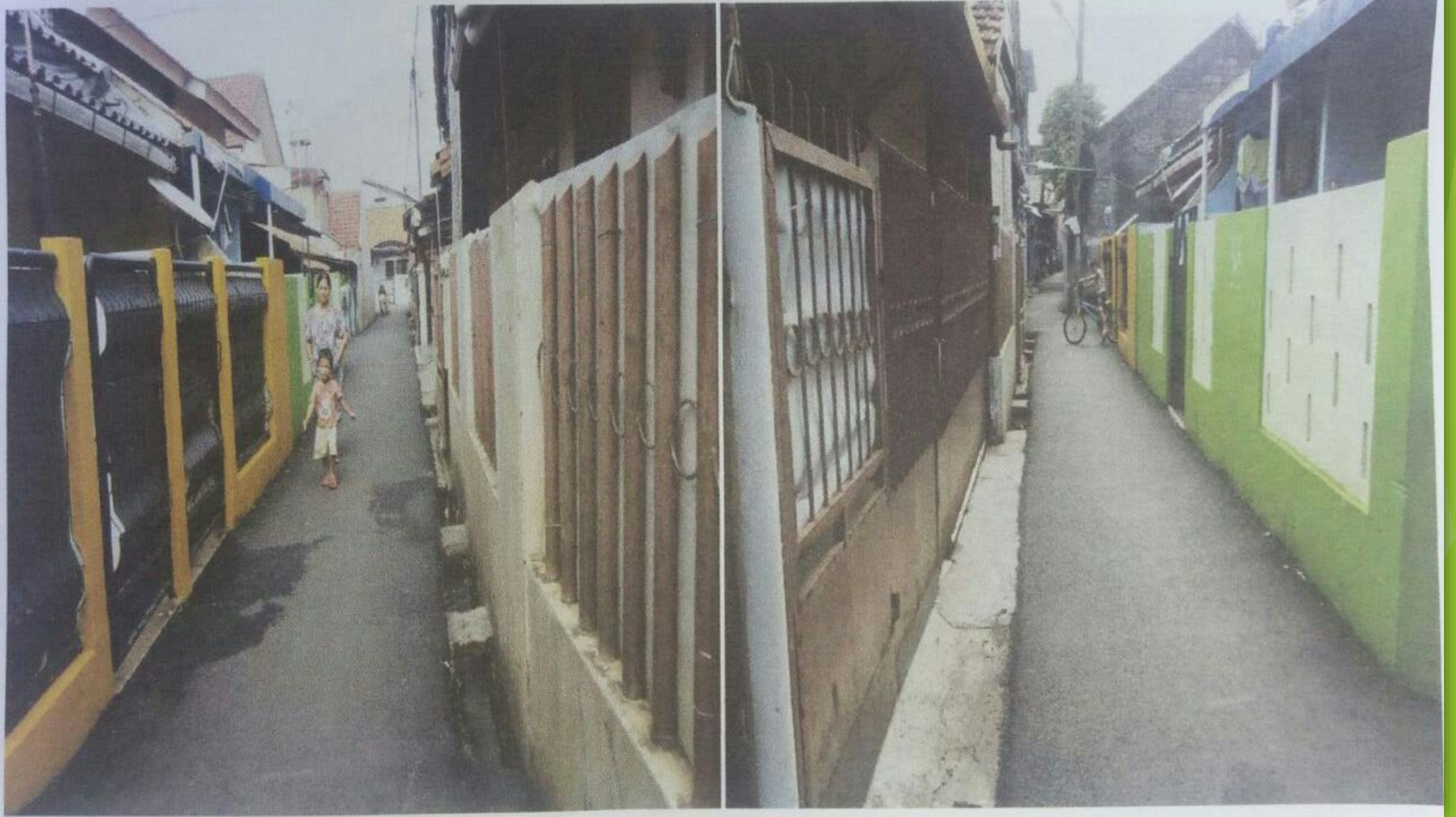


# ガンヒジヨウ（緑の路地）の始まりは？

- ▶ 枯渇したアスマット通り周辺地域
- ▶ 2017年初頭、ジャカルタ特別州農林水産物・食品管理局（DKPKP）による緑の小道プログラムの採択
- ▶ 2017年10月、支援を得る（植物及び種や苗）

## どのように発展したか？

- ▶ 当初枯渇していた周辺地域は現在改善され、生き生きとしている
- ▶ 薬用植物と野菜の多くは健康食品として活用されている
- ▶ 現時点で、ジャカルタ特別州の6地域に広がるガンヒジヨウ（緑の路地）の合計は500本







- ❖ グーグルマップの空中写真地図
- ❖ ガンヒジョウ（緑の路地）農業(プログラム)初期の写真
- ❖ ガンヒジョウ（緑の路地）における農業は、全長300m前後の緑の路地に沿って行われている。周辺民家の壁や柵（フェンス）で太陽光が当たる場所を活用しているため、面積は場所次第。







❖ 水耕栽培システムで既存の土地を最大限に活用することで、3000株前後の生産量を確保する。

❖ 販売先:

- 水耕栽培園（収穫時期に招待された周辺住民が購入したり自ら収穫したりする）
- バザー（各種農業イベントにおいてバザーに参加する）
- 配達（注文配送システムを通じて取引を行う）

都市型農業は、良いビジネスチャンスに発展する可能性が非常に高い。

原料や農業資材から、食卓に並ぶまでのすべてがビジネスチャンスといえる。

現在、消費者は安全で健康に良い食べ物や飲み物に気を使うようになった。

健康的なライフスタイルがますます広まってきているため、安全で健康的な食品・飲料品を生産することは有望なビジネスチャンスである。



ジャカルタにおける都市型農業は、他の大都市や人口密集地における農業と同じである。農産物は、周辺地域で販売するほか、現在は技術を駆使してオンライン販売も行っている。



# 私が取り組んでいる都市型農業についての紹介:

## 1. 水耕栽培

- ▶ 場所 : Jl. Manuunggal II RT 03 Rw 02, Kel. Petukangan Selatan, Kec. Pesanggrahan, Jakarta Selatan, Indonesia
- ▶ 栽培数 : 約3000株
- ▶ 品種 : 空心菜・チンゲン菜・レタス

## 2. 事業分析

- ▶ 空心菜 (1000 株)

収穫に必要な種代  $400 \times 1000 = \text{Rp } 400.000$

減価償却費  $20 \times 1000 = \text{Rp } 200.000$

Jumlah = Rp 600.000

10グラム x 1000 株 x 20000 = Rp 1.200.000 (120万ルピア)

利益 Rp 600.000 (60万ルピア) / 15 日

# 都市型農業による収入は充分か？

- 前ページのスライドにおける計算は、1品種のみ15日間で算出している
- 販売価格が高く、良好な市場シェアを持つ野菜品種の選択（が重要である）

# 都市型農業のメリット（水耕栽培）

- ▶ 広大な土地を必要としない
- ▶ 効率的な水の利用
- ▶ 農産物の品質向上
- ▶ 収穫量の最大化
- ▶ 食料（野菜）調達量の増加
- ▶ 世帯収入の増加
- ▶ 大気質の改善
- ▶ 環境保全

以上から、都市型農業は好機に恵まれており、持続性を高めることが求められている。





水耕栽培野菜の品質と収穫量を高めることが、農産物の売り上げ増加につながる。



# ガンヒジヨウ（緑の路地）での農業と 水耕栽培園での農業の違いは？

## ▶ 共通点

両方とも水耕栽培システムを利用している

## ▶ ガンヒジヨウ（緑の路地）では、

民家の壁や柵（フェンス）を農地として活用している

## ▶ 水耕栽培園では、

生産規模拡大のため水耕栽培システムで土地を最大限に活用している

# 都市型農業を行う理由は何か？

1. ポジティブな活動である
2. 健康に良い野菜を手に入れたい
3. (健康に良い野菜を) 簡単に入手できる
4. より手頃な価格で入手できる
5. 収入を増やすことができる
6. 周辺地域やコミュニティと関わりを持つ
7. 緑豊かで涼しく美しい環境
8. 大気汚染の改善

# 次世代へ

- 子どもたちを農業活動に参加させる
- 農業を学習プログラムにする（水耕栽培）



# 農業団体の歴史

- ▶ 2017年10月20日に設立
- ▶ 総メンバー数は約32人
- ▶ 達成した取り組み：
  1. 考え方と行動の改善
  2. 小規模でも都市型農業を実現
  3. 家庭内の食料確保（野菜）
  4. 世帯収入の増加

都市型農業は、農業団体だけでなく、地域住民の皆様によって行われている。



## 住民が都市型農業に携わる頻度は？

- ▶ 住民はブロック別に3~5人のメンバーで毎日活動を行っている
- ▶ 水耕栽培園では日曜日の夕方に住民が活動を行っている
- ▶ 月に一度、農業評価を行っている

## ガンヒジョウ（緑の路地）での農業に携わる住民の属性は？

- ▶ 経済的属性は、中間~下層階級

都市型農業の技術に触れることで、収穫量を高められるだけでなく、これには高い芸術的価値があるといえる。





政府からの支援と理解は、私たちが取り組む都市型農業の成功に大いに役立っている。







